

顔のゆがみ

この頃のワッシーは洗顔の時にチラッと自分の顔を見るだけだ。もともと鑑賞に値しないシロモノ。ひどく壊れていないと分かるだけでよい。

62歳のSさん。「いつからか、左の顔がゆがんできたみたい。頭の病気ではないか?」とオロオロしている。発見した奥さんと一緒になって、「左の口元が下がっている」と大騒ぎである。確かに、軽い左右差はあるが、それだけで顔の麻痺まひと言えるだろうか。

顔の麻痺でも、約8割を占める「末梢しゆせう性顔面神経麻痺」では、片側の額にしわが寄らなくなって、眉毛が下がってくる。まぶたを完全に閉じることができない。目が乾いたりする。口角が下がり、食べ物や飲み物が口からこぼれる。

鼻唇溝びんくわうという口元のしわが浅くなる。言語障害が起き、パ行がうまく言えない。口を閉じて、頬を膨らませることができない。麻痺した側の口から空気が漏れ、口笛がうまく吹けなくなる。

ところが、口笛は吹けないが、額にしわが寄る、まぶたを閉じることができないという顔面神経麻痺もある。脳梗塞や脳出血、脳腫瘍などが原因で起きる「中枢性顔面神経麻痺」である。

額や目の周りの筋肉に分布する顔面神経の核は、両側の脳皮質から支配を受けている。片側がダメになっても麻痺は起きない。だから、中枢性の麻痺は、一見、軽そうに見える。その上、脳腫瘍などでは、症状がゆっくりと出てくることもある。いつの間にか麻痺していると、発見が遅れたりする。

だが、Sさんは、まぶたを閉じることができない。口笛も吹けるではないか。顔面神経麻痺ではなからう。どんなひどくても、よく見ると、顔のつくりは微妙に非対称なものだ。ボンヤリしていれば病気を見落とす。顔を観察し過ぎても、健康なひとと病人になってしまう。なにがとも、ほどほどが良い。

(石黒修三ニールクリニック・脳神

経外科専門医…10/27北國新聞掲載)